広報ふかうら
11月号
No.200

ちびっこチャンピオン

「世界に一つだけの手作り絵本」

めぐみ子ども園のなかよしたち

（左から）

あさりゆあさん（5さい）
やまざきゆずきくん（5さい）
くどうそうしくん（4さい）
こじまそうたくん（6さい）
おのしおりさん（5さい）
さくらばゆうしんくん（6さい）

このコーナーでは、元気いっぱいな園児達の作品をご紹介します。

深浦町の花

福寿草

深浦町の木

橅

深浦町の鳥

カモメ

こんなに元気です！

このコーナーでは、お誕生日を迎えたチビッコ達をご紹介します

西崎ほのかちゃん
（舮作）R2／11／3生
「笑顔が最高！
仲良し姉妹になってね☺」

草創教育長の「今月の一枚」

二人のプライド

に顔絵は太宰治です。読み聞かせ団体から依頼された悪ノリの一枚です。

太宰は深浦にも縁ある、郷土が誇る一流作家です。誰もが一度は通る「青春の門」、私も若い頃、太宰作品にハマって熱に浮かされた記憶があります。

その短編「東京八景」に、次のような文があります。

「人間のプライドの究極の立脚点は、あれにもこれにも死ぬほど苦しんだ事があります、と言い切れる自覚ではないか。」

なるほど、苦しみぬいた経験を土台に本物のプライドが生まれる。その通り！　大して誇れる実績もないのに自己愛に溺れる若者、大して努力もしていないのにアピール力だけは強い子どもたちに聞かせたいセリフです。

プライドなんか捨てろ、とは言いません。全て捨てると「卑屈」になり下がってしまいます。

苦しみながらも真摯に仕事に向かう自分については、こっそり、でも胸を張ってプライドを持つべきです。でも、自分に自信を持ち過ぎた時点で、人は成長を止めてしまいます。常に向上心を胸に秘めつつ、でも私はまだまだと省みる。その「謙虚さ」がプライドを形造っていくのだと思います。

プライドと謙虚、そのバランスが難しい。

ついでに、おとなり岩手県の詩人石川啄木に登場願います。啄木は、感傷的な悲劇の詩人。一般的にはそんなイメージでしょうか。こんな強烈な句もあります。

「一度でも我に頭を下げさせし人みな死ねといのりてしこと」

頭を下げさせた人は皆死ね。極端すぎる自己愛とプライドです。実は啄木は、自分の才能を買いかぶり周囲と衝突を繰り返すトラブルメーカーです。金使いも汚く、女性依存も見苦しく、大ウソつきで世慣れたワル。これが定説です。

では、なぜそんな道を歩んでしまったのか。こんな句もよんでいます。

「父母のあまり過ぎたる愛育にかく風狂の児となりしかな」

両親の溺愛のせいで大バカ者になってしまったよ、という自己分析。当たっていますが、しょせん責任転嫁です。

啄木に足りなかったのは、結局「謙虚さ」です。

その人生には眉をひそめる部分もある二人ですが、プライドについては、わが太宰に軍配を上げたいと思います。

（教育長　草創　文人）

発行／青森県深浦町　編集／総合戦略課企画調整係
☎0173―74―2111（代表）

ホームページアドレス　http://www.town.fukaura.lg.jp/